

## 第3章

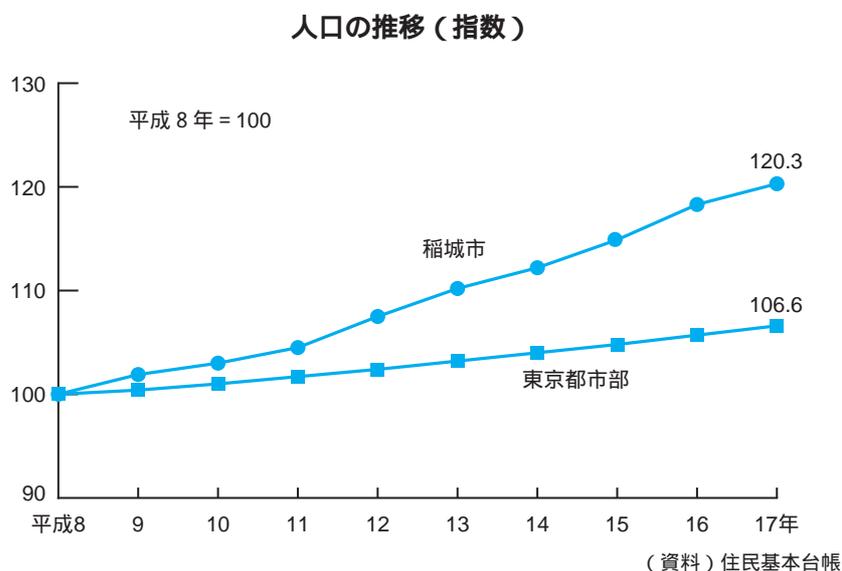
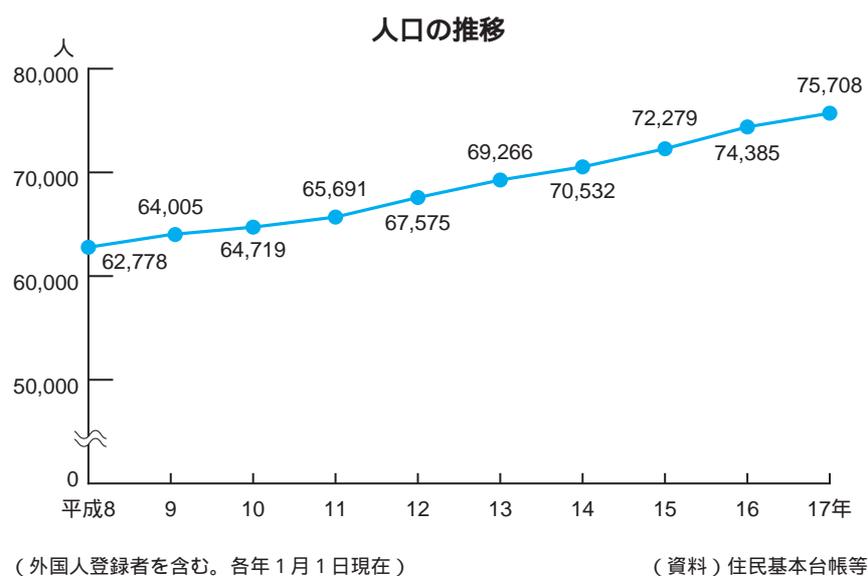
## 稲城市の概況

## 1 人口の動向

## (1) 人口の推移

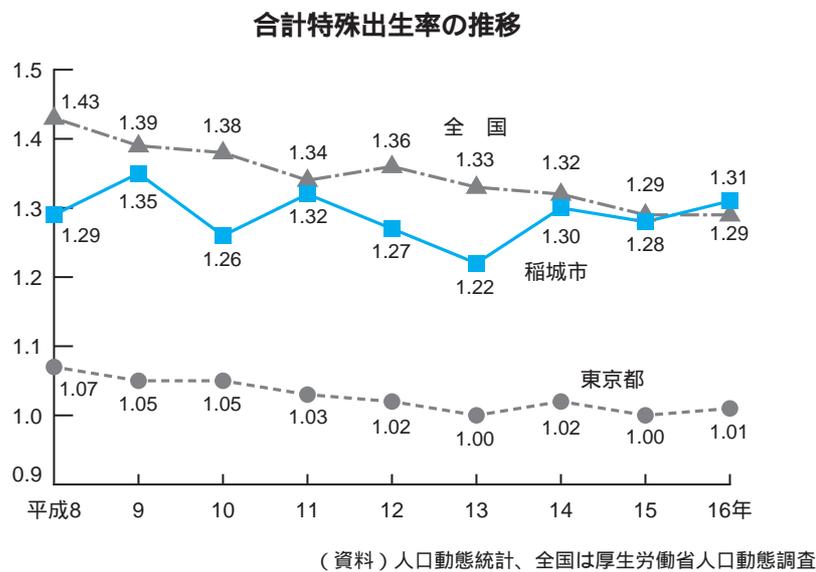
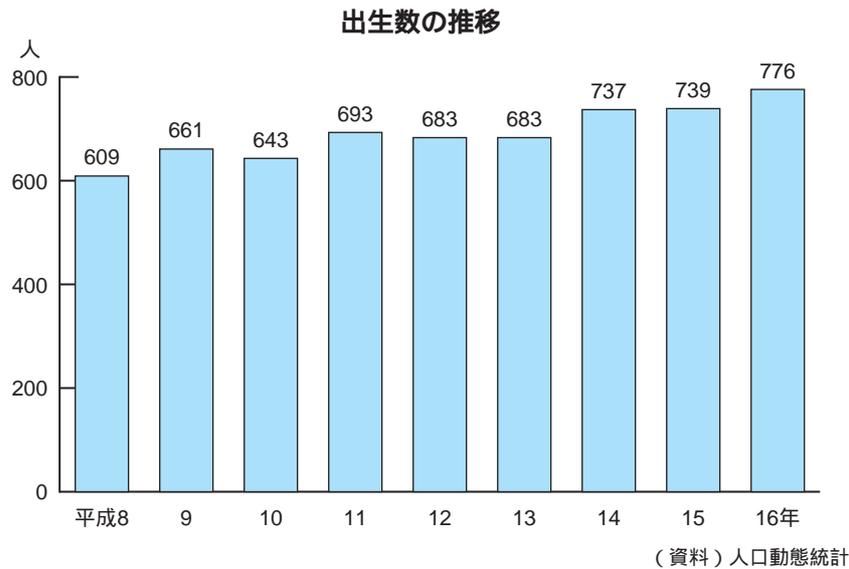
本市の人口は、多摩ニュータウン地区の入居に伴って増加が続いており、平成17年1月1日現在の人口は、住民基本台帳74,786人、外国人登録者数922人（45カ国）の合計75,708人となっています。

人口の推移を平成8年を100とした指数で比較すると、平成17年本市が120.3、東京都市部が106.6であり、本市の人口増加率が高いことがわかります。



## (2) 出生数と出生率の推移

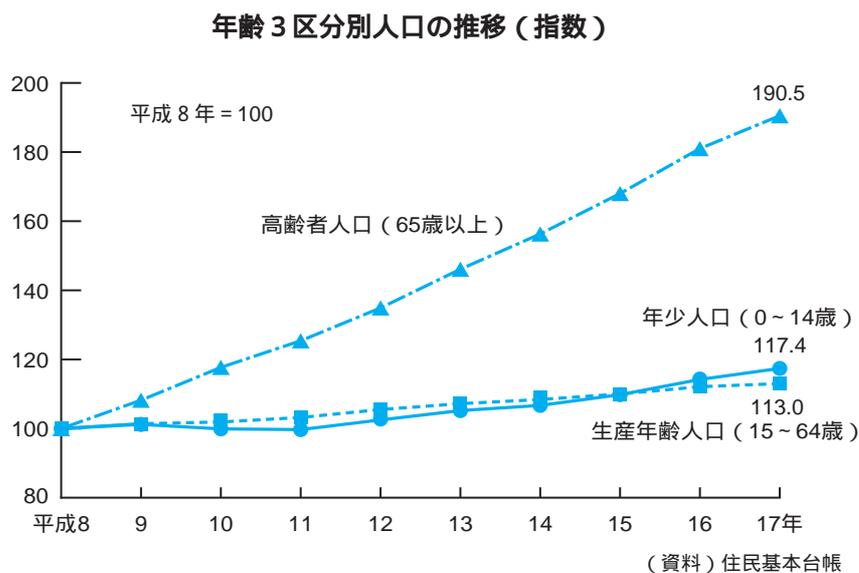
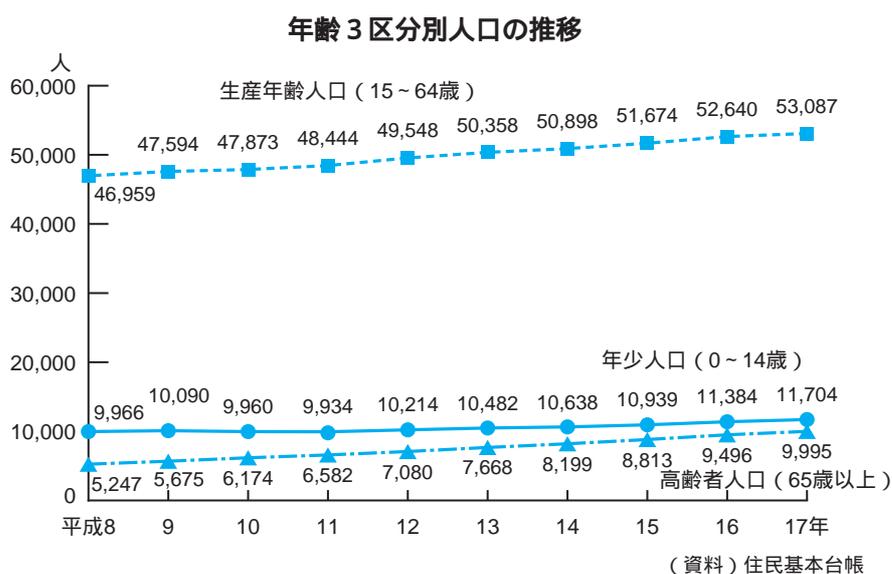
人口の増加に伴い、出生数も増加傾向にあります。平成14年度以降700人台を超える推移を示し、このため、合計特殊出生率は、東京都や全国では低下傾向が続いていますが、本市においては年度でバラツキがあるものの、概ね横這いで推移しています。



### (3) 年齢構成の推移

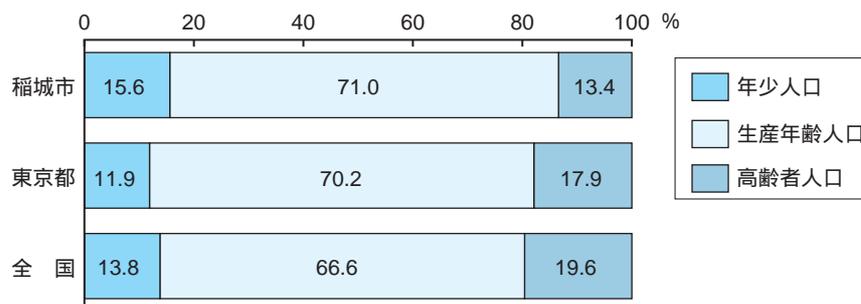
人口を3区分別構成で見ると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）及び高齢者人口（65歳以上）いずれも増加が続いています。

人口推移と同じく、平成8年を100とした指数で比較すると、平成17年老年人口190.5、年少人口117.4、生産年齢人口113.0であり、高齢者人口はこの10年間で約2倍と著しい増加となっています。



本市の年齢3区分別構成比は、平成17年年少人口比率15.6%、生産年齢人口比率71.0%、老年人口比率13.4%となっています。これを東京都及び全国と比較すると、本市は年少人口比率と生産年齢人口比率が上回り、高齢者人口比率は下回ります。

年齢3区分別人口（平成17年1月1日現在）



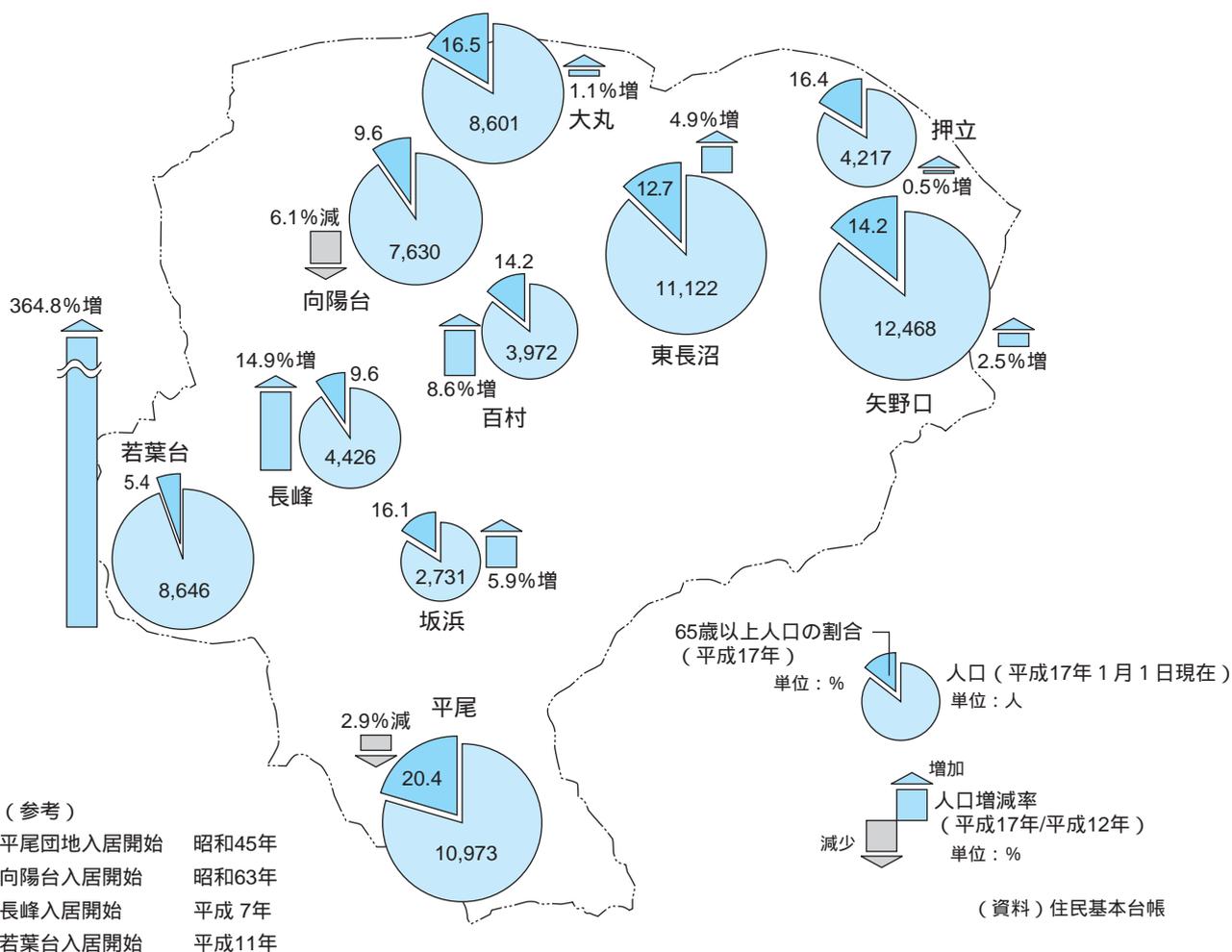
（資料）住民基本台帳、全国は総務省統計局「人口推計」

(4) 地区別人口の推移

平成17年1月1日現在、最も人口規模の大きい地区は矢野口地区の12,468人であり、次いで東長沼地区の11,122人、平尾地区の10,973人が1万人以上となっています。一方、最近の人口増減率（平成17年と12年の比較）では、相次ぐ大規模マンションの建設により、若葉台地区に若いファミリー世帯の入居が多くあり、人口が大幅に増加しています。これに対し、平尾地区や向陽台地区は人口減少となっています。

65歳以上の割合である高齢者人口比率は、平尾地区や大丸地区、押立地区などの既成市街地で高く、ニュータウン地区は低いといったように、地域により偏りがみられます。

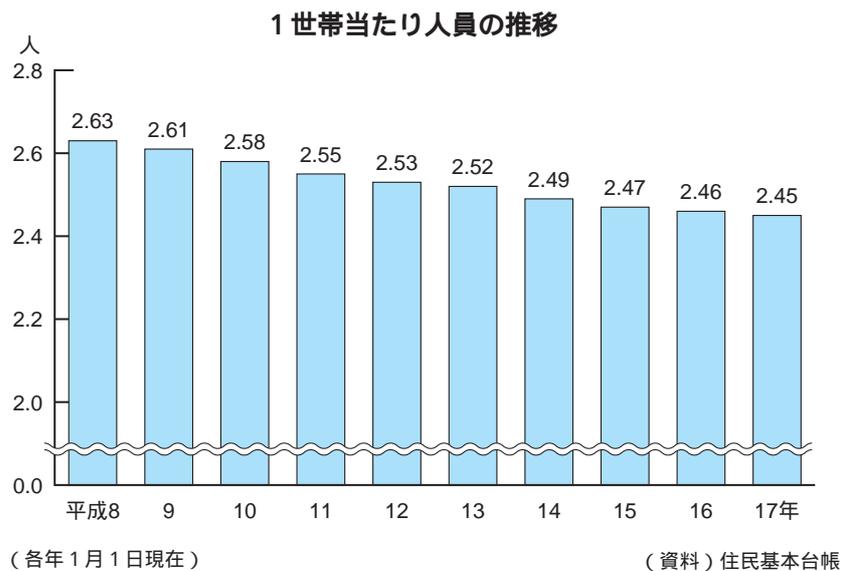
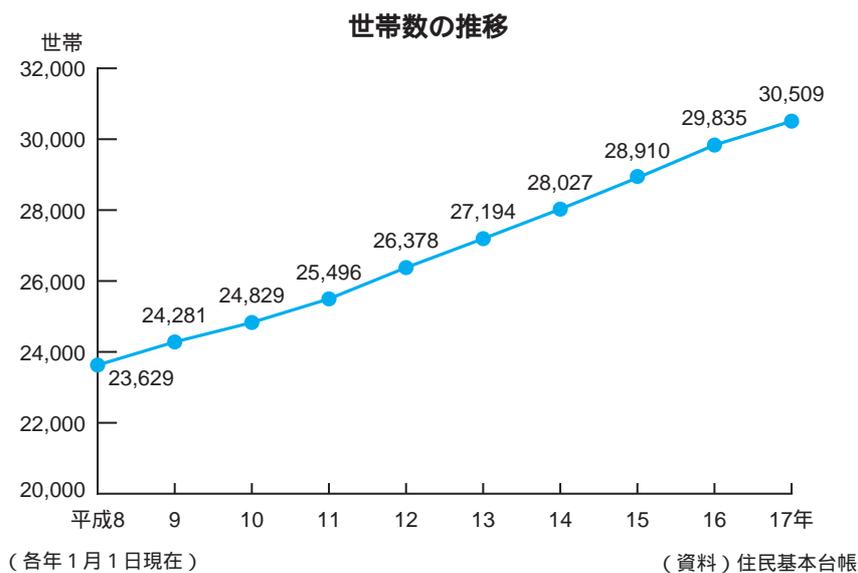
地区別人口の概況



## 2 世帯の動向

### (1) 世帯数の推移

世帯数は増加が続いており、平成17年1月1日現在の住民基本台帳では30,509世帯と  
なっています。一方、夫婦のみの世帯やひとり暮らしの若者及び高齢者の増加により1世  
帯当たり人員の減少が続いており、平成17年2.45人となっています。



(2) 世帯構成

一般世帯構成は、核家族世帯が多くを占め、平成12年の国勢調査では64.0%と東京都の52.2%を大きく上回ります。核家族世帯の中では、夫婦と子ども世帯が少なくなってきたのに対し、夫婦のみの世帯は増える傾向にあります。

また、3世代同居を中心としたその他の親族世帯は減少傾向にあるのに対し、ひとり暮らしの若者や高齢者の増加により単独世帯の増加は著しくなっています。ちなみにひとり暮らし高齢者世帯は平成16年11月調査で2,188世帯です。

一般世帯の構成比（平成12年）

|     | 核家族世帯 |        |          |          | 非親族世帯 | 単独世帯 | 単位：% |
|-----|-------|--------|----------|----------|-------|------|------|
|     | 夫婦のみ  | 夫婦と子ども | ひとり親と子ども | その他の親族世帯 |       |      |      |
| 稲城市 | 17.9  | 38.8   | 7.3      | 6.4      | 0.5   | 29.1 |      |
| 東京都 | 16.9  | 27.9   | 7.3      | 6.3      | 0.7   | 40.9 |      |
| 全国  | 18.9  | 31.9   | 7.6      | 13.6     | 0.4   | 27.6 |      |

(資料) 国勢調査

一般世帯の推移と構成

単位：世帯、%

| 区分       | 稲城市    |       |        |       |        |       | 東京都   |
|----------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|-------|
|          | 平成2年   |       | 平成7年   |       | 平成12年  |       | 平成12年 |
|          | 実数     | 構成比   | 実数     | 構成比   | 実数     | 構成比   | 構成比   |
| 核家族世帯    | 13,320 | 66.0  | 14,790 | 64.2  | 17,089 | 64.0  | 52.1  |
| 夫婦のみ     | 2,636  | 13.0  | 3,595  | 15.6  | 4,793  | 17.9  | 16.9  |
| 夫婦と子ども   | 9,394  | 46.6  | 9,566  | 41.5  | 10,353 | 38.8  | 27.9  |
| ひとり親と子ども | 1,290  | 6.4   | 1,629  | 7.1   | 1,943  | 7.3   | 7.3   |
| 男親と子ども   | 242    | 1.2   | 300    | 1.3   | 338    | 1.3   | 1.1   |
| 女親と子ども   | 1,048  | 5.2   | 1,329  | 5.8   | 1,605  | 6.0   | 6.2   |
| その他の親族世帯 | 1,695  | 8.4   | 1,722  | 7.5   | 1,708  | 6.4   | 6.3   |
| 非親族世帯    | 55     | 0.3   | 73     | 0.3   | 135    | 0.5   | 0.7   |
| 単独世帯     | 5,097  | 25.3  | 6,470  | 28.0  | 7,774  | 29.1  | 40.9  |
| 合計       | 20,167 | 100.0 | 23,055 | 100.0 | 26,706 | 100.0 | 100.0 |

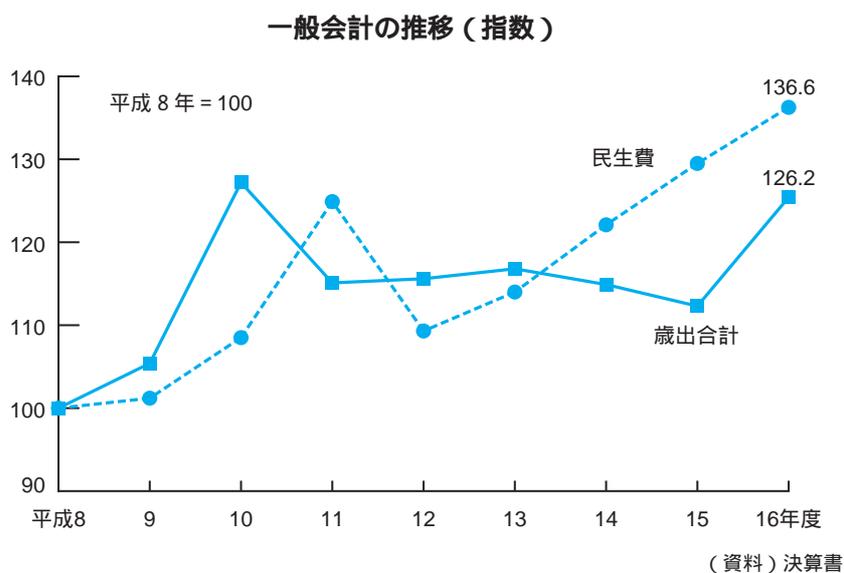
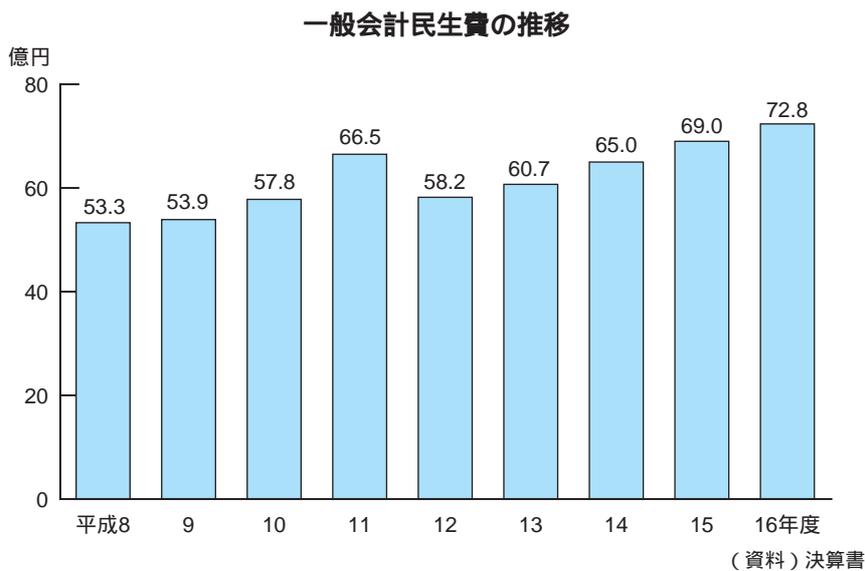
(注) 一般世帯とは、病院、寮などの施設を除いた世帯

(資料) 国勢調査

### 3 福祉関係費の推移

一般会計の歳出総額のうち、福祉に関する民生費は、介護保険制度が開始し、これにかかる経費が特別会計に移行した平成12年度を除いては、増加が続いています。

歳出総額及び民生費の推移を平成8年度を100とした指数で比較すると、平成16年度の歳出総額は126.2、民生費は136.6と民生費の高い伸びがわかります。



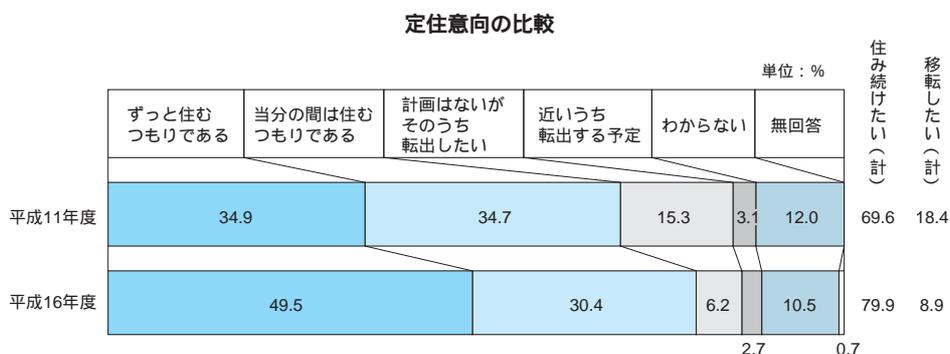
## 4 市民の意識

平成16年度に実施した市民意識調査の結果（抜粋）です。

- ・調査対象者 ... 市内に居住する満20歳以上の男女
- ・標本数 ... 2,000人を無作為抽出
- ・有効回収数 ... 1,054

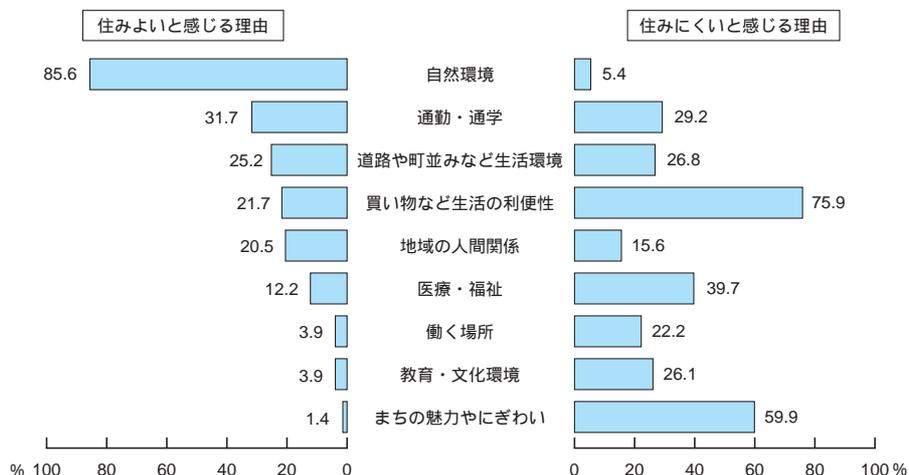
### (1) 定住意向

定住意向は、平成11年度時点の調査と比較すると、「ずっと住むつもりである」及び「当分の間住むつもりである」とする《住み続けたい》は大きく増加しています。



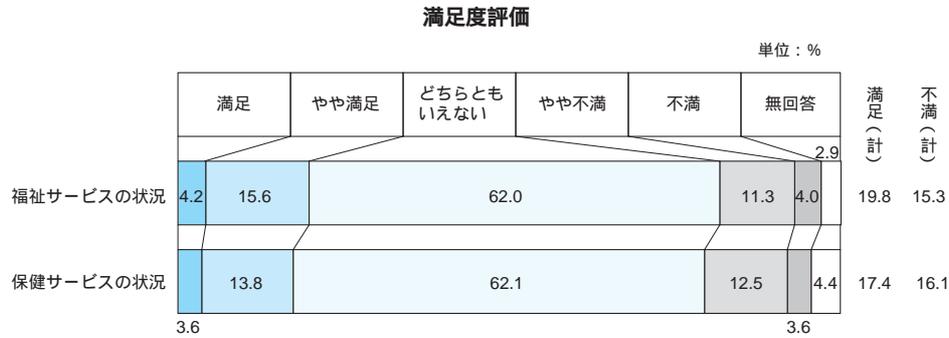
### (2) 住みよさと住みにくさの理由

住みよさと住みにくさの理由のなかで『医療・福祉』は住みよさでは下位、住みにくさでは上位となっています。また、地域の支え合い等で大切となる『地域の人間関係』は、住みよさでは中位、住みにくさでは下位となっています。



### (3) 満足度評価

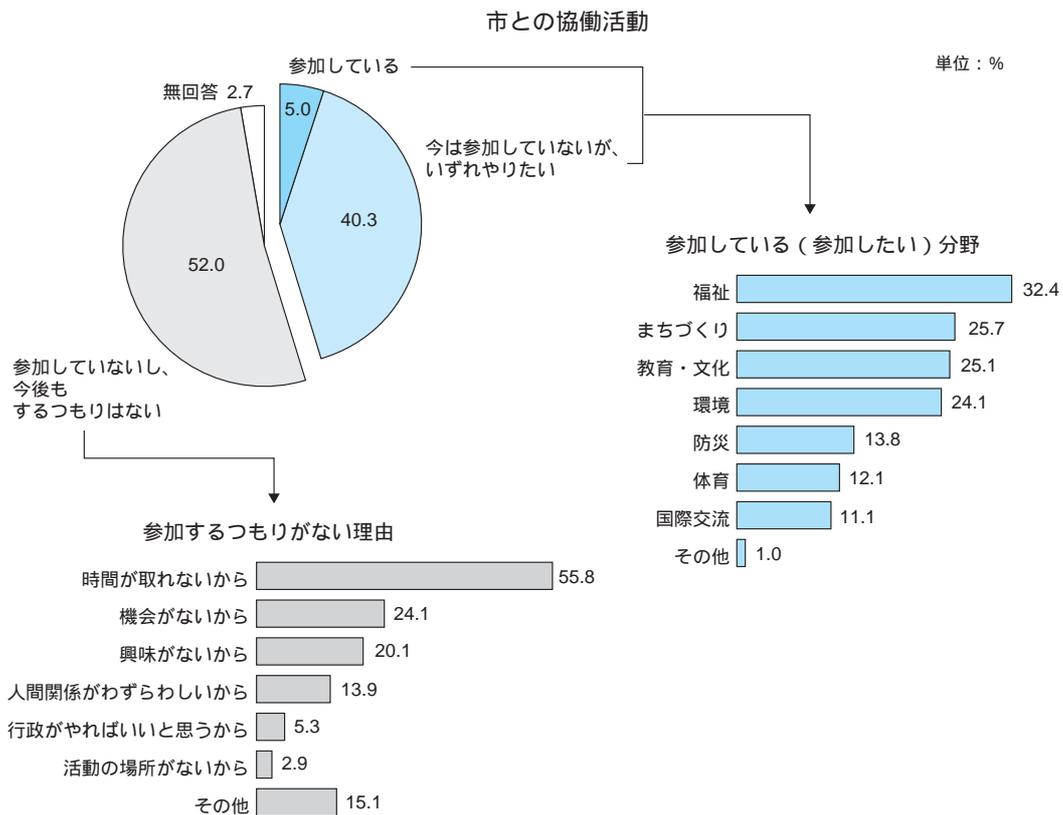
満足度評価では、『福祉サービスの状況』、『保健サービスの状況』いずれも「どちらともいえない」とする回答が多く、満足と不満は少ないながら拮抗しています。



### (4) 市との協働活動

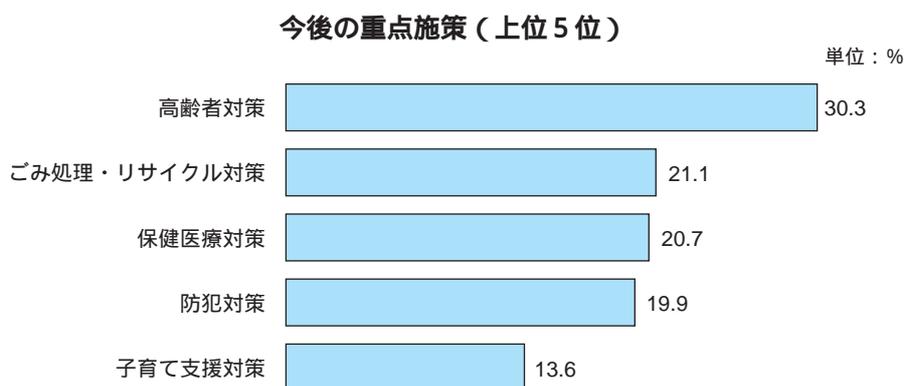
市との協働活動への参加状況は、「参加している」及び「今は参加していないが、いずれやりたい」の《参加意向》が5割近くに達しています。

「参加している」分野で最も多いのが『福祉』となっています。また、参加するつもりがない理由としては、『時間が取れないから』がほかを大きく離していますが、次いで『機会がないから』があげられ、何らかのきっかけが求められます。



### (5) 今後の重点施策

今後の重点施策としては、『高齢者対策』が多くあげられ、『保健医療対策』は『ごみ処理・リサイクル対策』や『防犯対策』と同程度で次に続いています。また、やや差があり『子育て支援対策』となっています。



### (6) 将来都市イメージ

将来都市像は、『健康で安心して暮らせるおもいやりのあるまちづくり』が最も多くあげられ、『水と緑につつまれたやすらぎのあるまちづくり』と『環境にやさしく安全で快適なまちづくり』を加えたイメージにほぼ集約されます。

